

令和5年度 美唄養護学校 第3回学校運営協議会

1 日 時 令和6年（2024年）3月1日（金）10:00～

2 会 場 北海道美唄養護学校 会議室①

3 出席者 委員5名（欠席2名）

荻野 昌崇 様（美唄市青年会議所直前理事長）

加藤 智美 様（安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄事務局チーフ）

土本 健太 様（美唄市社会福祉協議会地域福祉課地域福祉係長）

西川 一仁 様（日本理化学工業株式会社常務取締役）

林寺 隆憲 様（社会福祉法人北海道光生会美唄学園園長）

学校4名 校長、教頭、事務長、教諭

4 内 容

（1）令和5年度学校評価について（学校関係者評価）

（2）令和6年度学校経営方針（案）について

（3）意見交換・協議等



5 委員から学校へのご意見等

委 員	・1月に発生した能登半島地震において、福祉避難所が開設されていても行政の支援が十分行き届いていなかったという報道を目にした。本校や近隣の福祉施設等とも連携しながら、行政に対し災害時の緊急対策本部内に福祉避難所との連絡・調整を行う部署の位置付けなどについての働きかけを行ってはどうか。 ・生徒のキャリア意識を育てていく上で、卒業生が実際に働いている事業所などを見学する取組を行ってはどうか。ペットボトルのキャップの色分けを行っている作業現場では、キャップを材料にしている製品（黒板消し）が展示されていた。働いている人たちが正確な作業を行うことで、きれいな製品が作られるというメッセージが伝わっており、やりがいをもって仕事に取り組んでいた。 ・今年度、キャンドルやフォトフレームなどの制作を通じて本校の子ども達と関わる機会をもつことができ、障がいの理解につながるよい経験となった。次年度も今年度の取組で得た経験を基にして、よりよい学習プログラムを検討していきたい。 ・美唄市ではグリーン・ルネサンスの取組の一環として、教育課程の中に「農業科」を位置付けた取組を行っている。美唄という地域を教材として学ぶ上で、農業について学ぶことは大切だと思うので、市の教育委員会などとの連携を図っていったらどうか。
校 長	・本日の協議会でいただいたご意見を参考にしながら今後の学校経営に生かしていきたいと考える。地域とのつながりを大切にした教育活動を通じて、児童生徒が地域の一員として認められ、役に立ったと実感できる経験を積上げていきたいと考える。